防衛協会かがわ

出典：航空自衛隊ホームページ
（https://www.mod.go.jp/asdf/）

早期警戒管制機：『E-767』

【乗　　員】 約20名
【機　　体】 全幅：約48m　全長：約49m　全高：約16m
【エンジン】 名称：CF6-80C2　推力：61,500ポンド
　　形式：高バイパスターボファン・エンジン
【性　　能】 最大離陸重量：約170t　最大速度：約840km/h
【備　　考】 B－767旅客機をベースに、E－3の警戒管制システムを搭載

INDEX

新年のご挨拶 …… 香川県防衛協会会長　佐伯　勇人 … 2
陸上自衛隊第14旅団長　大場　剛 … 2
自衛隊香川地方協力本部長　小田　剛 … 3
香川県防衛協会この1年 …… 4～5
第61回香川県防衛協会定期総会 …… 6
香川県青年部潜水艦「まきしお」特別公開 …… 7
香川県青年部掃海艇「えたじま」体験航海 …… 7
北方研修レポート …… 8～10
千歳基地から見た香川 …… 11
女性部全国大会及び高知方面研修 …… 12～13
第14旅団広報 …… 14～15
受賞おめでとうございます …… 16
おくやみ・連絡 …… 17

新年のご挨拶

香川県防衛協会
会長　佐伯勇人

新年明けましておめでとうございます。

香川県防衛協会会員の皆様方におかれましては、ご家族ともどもお健やかに、佳き新年をお迎えのことと、心からお慶びを申し上げます。

当協会におきましては、昨年六十周年を迎え、永年の自衛隊に対する協力・支援等の活動が評価され、防衛大臣から感謝状が授与されました。これも偏に皆様方のご協力の賜物と、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

さて、国際社会は、普遍的価値やそれに基づく政治・経済体制を共有しない国家が勢力を拡大しており、ロシアによるウクライナ侵略をはじめとする力による一方的な現状変更やその試みは、既存の国際秩序に対する深刻な挑戦であり、戦後最大の試練の時を迎え、新たな危機の時代に突入しつつあると言われています。

我が国周辺においても、核・ミサイル戦力を含む軍備増強が急速に進展し、力による一方的な現状変更の圧力が高まっているとともに、有事と平時、軍事と非軍事の分野の境目も曖昧になっている現状です。

国内に目を転じますと、近年は集中豪雨や台風による災害が多発する傾向にあり、自衛隊の災害派遣活動は、その規模や形態を変化させながら、被災者や国民に寄り添うことで、多くの国民から益々信頼を得ています。

このような環境の下、第十四旅団では昨年三月に着任された大場旅団長の指揮のもと、各種事態に即応する「機動旅団」として、作戦能力の更なる向上を目的とした旅団演習などを通じ、日々訓練に精励されています。また、南海トラフ地震に備えた自衛隊統合防災演習および方面隊実動演習（災害対処）に参加され、災害対処能力の向上を図られたと伺っています。

私自身も、昨年、会長に就任したことを機に善通寺駐屯地を訪れ訓練等を見学する機会があり、隊員の皆さまの意気軒昂とした姿や統率の取れた行動に感銘を受けたところでございます。

第十四旅団の皆様には、引き続き、国民の期待に応えるべく、四国四県の防衛・警備はもとより、南西地域等の防衛任務に邁進され、その重責を果たされることを切に期待しております。

また、自衛隊香川地方協力本部の皆様には、自衛隊と県民を繋ぐ架け橋として、引き続き、募集・援護・広報業務等にご尽力いただきたいと存じます。

当協会は、今後も自衛隊に対する支援・協力を力強く進めていく決意であり、会員の増勢についても、より一層力を入れてまいります。会員の皆様方におかれましても、引き続き、自衛隊を支える良き理解者として、当協会の事業活動に力強いご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、本年が皆様方にとって、幸多き一年いたします。

年頭の辞

陸上自衛隊第十四旅団長
陸将補　大場　剛

新年明けましておめでとうございます。

香川県防衛協会の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、香川県防衛協会が創立六十周年を迎えられ、改めて皆様の弛まぬ努力に深く敬意と感謝を表しますとともに平素より第十四旅団に対する格別のご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、ロシアによるウクライナ侵略をはじめとする力による一方的な現状変更やその試みは、国際社会に対する深刻な挑戦となっており、我々は戦後最大の試練の時を迎え新たな危機の時代に突入しつつあります。

また、各国は将来の戦闘様相を一変させるゲームチェンジャーとなり得る最先端技術の開発を行っており、従来の軍隊の構造や戦い方に根本的な変化を生じさせています。

さらに、サイバー領域などにおけるリスクの深刻化、偽情報を拡散させる認知戦の展開、軍事的な手段と非軍事的な手段を組み合わせたハイブリッド戦の脅威等、現在のわが国を取り巻く安全保障環境は目まぐるしい速さで厳しさを増しております。

国際情勢の大きな変化を受け、政府は一昨年末、わが国の国家安全保障政策に係る主要な文書として国家安全保障戦略、国家防衛戦略及び中期防衛力整備計画の三文書を閣議決定し、我が国に真に必要な防衛力を抜本的に強化していく方向性を打ち出し、現在も軍事組織として必要な防衛力整備を推進しているところであります。

このような中、第十四旅団は、四国四県の防衛警備はもとより、いかなる事態にも即時対応できるがごとく「実力を進化」させる必要があります。特に戦闘力の組織化、強靭かつ持続性ある作戦を可能とする戦術・戦法の創造及び任務遂行に必要な練度の向上を図り、国家の独立と平和、国民の皆様の生命と財産を守って参る所存です。

しかしながら、任務は決して我々のみでは成すことはできず、南海トラフ地震をはじめとする各種の災害対処では、関係部外機関や各自治体等との連携が不可欠です。また、隊員募集や退職隊員の援護等においては、地域との連携なくして我々が組織を維持し、任務遂行に邁進することは困難であります。このため、日頃から「地域との連携」を意識して隊務を遂行するため香川県防衛協会をはじめ、関係機関との連携強化に努めて参ります。

本年も、第十四旅団は「万事任務が基準」として、より一層の努力をしてまいる所存でありますので、変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、香川県防衛協会の益々のご発展と会員皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

新年のご挨拶

自衛隊香川地方協力本部長
一等陸佐　小田　剛

新年明けましておめでとうございます。

香川県防衛協会の皆様におかれましては、令和六年の新年をお健やかにお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、平素より自衛隊香川地方協力本部に対しまして格別のご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

旧年中は五月に新型コロナウイルス感染症が五類感染症に移行されたこともあり、社会生活・経済活動がかつての状況に戻ってきて参りました。そのような中、六月には佐伯会長の御就任と、香川県防衛協会創立六〇周年記念行事が盛大に行われましたことは、香川地本にとりましても喜ばしい限りです。また、十月には、四年ぶりとなる研修旅行が実施され、北海道におきまして、主に陸自第七師団と空自千歳基地を多くの会員の方々に研修して頂きました。その他、防衛協会の皆様には、三月に香川県入隊・入校予定者激励会、六月には自衛隊高松定期演奏会を、それぞれ開催して頂きました。特に、定期演奏会では、参加された方々からは口々に「楽しかったです。」と言って頂き、大変喜んで頂けたものと実感しております。香川地本としてもそれら行事を支援させて頂くとともに、地域のイベントが逐次再開していることから積極的にそれらにも参画して広報活動を実施する等、募集活動を行って参りました。さらには、隊員の再就職援護及び予備自衛官等の管理についても地道な活動を継続してきた結果、六月には防衛大臣より第一級賞状を授与されました。これもひとえに香川県防衛協会の皆様の平素からの多大なご支援とご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

本年も香川地本は与えられた任務を完遂すべく、厳しい募集環境の中ではありますが、引き続き人材確保に努めるとともに、現職隊員が退職の日まで安心して職務に専念できるよう円滑な適職援護と処遇の向上に努めるなど人的基盤の充実を図っていくことに加え、予備自衛官等の適切な管理を行って運用の実効性向上に寄与していく所存ですので、今後とも深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、香川県防衛協会の益々のご発展と、会員皆様方とご家族ともどものご健勝とご多幸を祈念申し上げ新年の挨拶と致します。

香川地本マスコット
モリーヌくん
『本年も香川地本をよろしくお願いいたします。』

香川県防衛協会 この1年

３月１１日
令和４年度入隊・入校激励会

自衛隊協力3団体が主催し、穴吹ホールにおいて令和5年春、自衛隊入隊・入校激励会を開催した。当日は、各協力団体代表者、来賓及び入隊等予定者の親族等をお招きし、久しぶりに盛大に行事を実施した。来場した135名の入隊・入校予定者は、各団体代表及び来賓の激励の言葉を受け、力強く自衛官への第一歩を歩み出した。

４月２９日
第１４旅団創隊１６周年
善通寺駐屯地開設７２周年記念行事

陸上自衛隊第15即応機動連隊の自衛官候補生入隊式が行われ、泉会長代行が出席し、新入隊員を激励した。まだまだ線の細い若き防人たちだが、力強く行進する姿は頼もしい限りであった。

令和6年行事予定

1月17日	自衛隊協力団体賀詞交歓会
2月	全国協会防衛連合会
	青年部研修大会（奄美）
2月28日	青年部研修
29日	（美保基地、出雲駐屯地）
3月 2日	第14旅団音楽まつり
3月 9日	令和5年度自衛隊入隊入校予定者激励会
4月	女性部役員会
	善通寺駐屯地記念行事
5月	本会役員会
	掃海母艦高松入港歓迎行事
	第54回中国・四国地区自衛隊協力団体長会議
6月	青年部総会
	全国防協会連合会定期総会
	香川県防衛協会第62回定期総会
	第46回自衛隊音楽隊高松定期演奏会
10月	青年部研修
	本会研修
	全国防衛協会女性部研修大会

７月１４日
自衛隊香川地方協力本部
第１級賞状受賞祝賀会

令和４年度の募集等業務の成果が評価され、自衛隊香川地方協力本部が第１級賞状（防衛大臣表彰）受賞したことを祝して祝賀会が開催され、本会を代表して多田野副会長が出席し、受賞の栄誉を称えるとともに地本隊員の日頃の労をねぎらった。

８月４日
入港歓迎行事　護衛艦「いせ」

佐世保基地所属護衛艦「いせ」が艦艇広報のため８月４日～６日までの間、高松港に寄港した。約２００ｍにおよぶ巨大な船体が停泊する岸壁は連日大勢の見学者で賑わい、当会からも２２名の会員が艦内を研修し、海上自衛隊の任務等について見識を深めた。初日の歓迎行事では多田野副会長から高松寄港へのお礼とともに昼夜を問わず国防の最前線で任務にあたる乗組員へ感謝と激励の言葉が述べられ、その後の懇親会では盛大にその労をねぎらうことができた。

４月２９日
第１４旅団創隊１７周年・
善通寺駐屯地開設７３周年記念行事

第１４旅団創隊１７周年及び善通寺駐屯地創設７３周年記念行事が、開催され、本会から泉会長代行が出席し、祝辞を述べた。今年は４年ぶりに駐屯地が一般開放され、大勢の来場者で賑わう活気に満ちた記念行事となった。なお、本記念日において、坂井青年部長が第14旅団長から感謝状を授与された。

６月２４日
第４５回高松自衛隊定期演奏会

陸上自衛隊第１４音楽隊及び海上自衛隊呉音楽隊をレグザムホールにお招きし、第４５回高松定期演奏会を開催した。当日は約２０００席の会場がほぼ満員となり、県民の音楽隊の演奏への期待とともに自衛隊への関心の高さを伺うことができ、防衛思想の普及に大いに貢献できたものと考える。

第61回 香川県防衛協会定期総会

香川県防衛協会は令和五年六月十七日、高松市国際ホテルにおいて第六一回定期総会及び創立六十周年記念行事を開催した。

総会の第一部では、令和四年度事業報告、収支決算報告及び監査報告に関する件、令和五年度事業計画、収支予算に関する件、役員改選及び顧問・相談役の委嘱に関する件について審議し、原案通り承認・可決された。

総会に引き続き第二部においては、元防衛大臣小野寺五典衆議院議員を講師にお招きし、「我が国の防衛と安全保障」と題して記念講演を行った。

第三部は、場所を瀬戸の間に移して六十周年記念祝賀会を開催した。ここで、令和五年一月十二日に千葉前会長が急逝されて以来空席となっていた会長職に、新たに就任された佐伯勇人四国電力株式会社取締役会長の就任披露となった。

佐伯新会長からの就任挨拶に続き、ご来賓の紹介の後、久保副会長の乾杯の発声で祝宴となり、会員同士、来賓を交えながら終始和やかな雰囲気の中で記念祝賀会が行われた。

記念祝賀会は、中副会長による中締めでお開きとなり、大盛況のうちに第六十一回定期会及び創立六十周年記念行事を閉会した。

なお、役員改選は次のとおり。

◆ 役 員 改 選 ◆

役職名	新任	退任
会長	四国電力株式会社 取締役会長 佐伯勇人	四国電力株式会社 相談役 千葉昭
理事	株式会社香川銀行 専務取締役 近石政義	株式会社香川銀行 取締役会長 本田典孝
理事	高松市議会 議長 白石義人	高松市議会 議長 佐藤好邦
理事	睦友会 会長 大濱壽夫	睦友会 会長 中野幸則

役職名	新任	退任
副部長	――	千野民子
理事	長谷川靖子	――

役職名	新任	退任
顧問	第14旅団長 大場剛	第14旅団長 遠藤充
相談役	――	株式会社タダノ 名誉顧問 多田野康雄

海上自衛隊潜水艦まきしお 特別公開に参加して

松田 和也

令和五年二月二十六日(日)に潜水艦「まきしお」に体験乗船をさせていただきました。案内の自衛官の方は、小さな子供さんにも優しく接しておられ、安心して見学を行うことができました。

まず潜水艦に入る場所にびっくりしました。大変狭い場所を垂直に降りていかなければならず、短時間で多くの乗組員が乗り込むのは大変だと思いました。中に入ってみると、想像とは違って十分な空間が確保されていることに驚きました。できるだけ効率的に物を配置工夫しているのだと思います。ただ、それぞれの区画の間にあるハッチの部分は、幅が広く簡単に跨げないぐらい移動が大変で、これも多くの乗組員が早く移動しなければならないときは、相当の訓練が必要と感じました。最後に、もっとも楽しみにしていた潜望鏡をじっくり覗くことができたことはなによりもうれしかったです。

日本は周りを海に囲まれており、潜水艦の本土防衛に対する役割は非常に大きいと思います。また、特殊任務を遂行しなければならない場合も多く、日々鍛錬しておられる自衛官に改めて敬意を表します。いっしょに体験乗船した青年のひとりが4月から海上自衛隊に入隊して潜水艦の乗組員を目指すとうれしそうに話していました。彼にも心からエールを送りつつ、御礼の言葉と致します。

航海中、艦橋では操舵の仕方や各種ディスプレイの解説、格納庫では防火服や機雷処理等に用いる無人機を始めとした装備品の展示、後続の「なおしま」と発光信号での通信が行われました。また、先般の災害派遣時に従事された方に当時のことを直接伺う機会があり、その時の想いや苦労等が分かり、とても印象的でした。

操艦や自衛艦らしい発光信号、乗員の方との懇談等、通常の艦艇公開では見られない部分が多々あったことから、体験しないと分からない艦艇勤務についての理解を深めることができました。

掃海艦「えたじま」体験航海

筒井 悠太

出港ラッパと「出港よーい！」の掛け声とともに、乗艦する「えたじま」の艇体が振動します。「えたじま」はバウ・スラスター等を使い、曳船(タグ・ボート)の手を借りず、掃海艦艇らしく「一隻だけ」で艇体を動かし、高松港朝日地区を後にしました。

体験航海は屋島沖まで。香川県高松市のシンボルである屋島や瀬戸内海の多島美を、陸地からは眺めることができない海からの景色で楽しんできました。

北方研修レポート

横井事務局長

10/(日)22

千歳空港着後、日本ハムファイターズの本拠地エスコンフィールド球場に入り、スタジアムツアーに参加し、日頃は入れないＶＩＰルームの観覧席や、一塁側ベンチに座ったり、グラウンドを歩く体験等、日本の球場とは思えない素晴らしい球場を体感出来た。

千歳の宿泊ホテルの宴会場にて、今回の研修の受け入れ調整に尽力して頂いた、第７師団遠藤師団長を始め、三名の元14旅団勤務経験者をお招きしての懇親会を開催し、師団長と参加者一同と懇親を深める。

10/(月)23

北部方面隊戦車射撃競技会視察

早朝より北恵庭駐屯地経由、第一戦車射場の視察者用天幕に移動し、競技会視察が始まった。私達に与えられた時間は約十五分間で一つの戦車小隊の競技の視察が開始されたが、一両の戦車に不具合が発生し、一時はどうなるかと思っていたが、そこは日頃の訓練の成果を遺憾無く発揮され、不具合を克服して無事に射撃競技会を終了。

初めて戦車の実弾射撃を経験した方も多かったが、緊迫した競技会を体感出来たと思う。

泥沼の悪路を走破しながらの行進間射撃等は、迫力満点でも有りどんな悪条件下でも確実に命中させる自衛隊員の練度の高さに、北の守りを任せる安心感を持てた。

90式戦車体験搭乗

次は北恵庭駐屯地内にて、射撃競技会の開催中であるが、遠藤師団長のご配慮で９０式戦車の体験搭乗が実施出来た。

走行コースの都合からか、超信地旋回（その場で百八十度の旋回）を二回体感出来るコースの設定で、体験搭乗した皆さん全員笑顔の体験搭乗を実現出来た。

ちなみに、今回の北部方面隊戦車射撃競技会の総合優勝は、第72戦車連隊で、昨年に続き四連覇との事。その部隊のマークは白馬で、奇しくも今回の９０式戦車体験搭乗を実施して頂いた連隊でした。

東千歳駐屯地研修

二個班に分かれて固定装備品、資料館の研修や売店でのお買い物等の研修を実施。

その中でも資料館は、駐屯地や自衛隊の戦車の歴史のみならず、先の大戦終戦間際。北方の地で国の為に散った戦車大隊の存在を紹介しており、もしかしたら日本の歴史が変わったかも知れない英霊に感銘と感謝の気持ちで一杯になった。

香川県出身隊員激励慰問

三名の隊員への激励実施し、多田野団長のり激励の言葉と、うどんの激励品を手渡した。

反対に隊員から感謝の言葉と、任務に励む意気込みの挨拶を受ける。

10/(火)24

航空自衛隊千歳基地研修

最終日の研修は、管制塔の真下に有る展望室から研修がスタート。

千歳基地、新千歳空港が一望出来る展望室から説明と眺望を楽しんでいると、偶然にも、F15戦闘機のタッチアンドゴーを、ほぼ管制官の目線の高さで見れる貴重な体験が出来、参加者皆興奮状態。

千歳救難隊

若くイケメンなパイロットと、肉体美が美しいメデイック(救難隊員)による、UH60Jヘリコプターや救難用具等の詳細な説明を受ける。

各救助装備品を実際の触れる事が出来たがその重さに驚愕。メデイックを初め、救難隊皆さんの人の命を助ける崇高な思いと大変な任務に敬服です。

F15戦闘機見学

F15戦闘機のハンガー到着時、偶然にもスクランブル発進を見送る事が出来た。

いつ何時でも日本空域に近づく不明機へ命がけで対処する自衛官への感謝の思いや、その後も訓練で離陸するF15戦闘機を見送りながら、無事に帰投して欲しい思いで一杯になった。

写真撮影は出来無かったが、コクピット見学や一部の計器類に触れさせて頂き感動。特に、香川県出身のパイロットが、遠慮無くどんどん触って下さい！の言葉から、F15戦闘機を手が届く範囲を油で手が汚れる迄触り続けた。触る事で、機体の構造体の違いを体感出来、この時間がいつ迄も続いて欲しいと感じた。

体験喫食香川県出身隊員激励慰問

香川県出身隊員と一緒の体験喫食はやはり楽しく、隊員の日々の訓練の内容や、入隊のきっかけや、国を守る思いに話が咲いた。

そして多田野団長より労いの言葉と、うどんの激励品を一人一人に渡し、反対に各隊員からお礼の言葉を受け、楽しい時間は過ぎて行った。

その後、県出身隊員との記念撮影の後、個人的に大好きなF15戦闘機のF100-PW-220エンジンのアイドリング音が響き渡る千歳基地を後にした。

この度の研修旅行は、小田本部長を始めとする香川地本総務課の皆様の大変なご尽力と、第7師団遠藤師団長のご配慮無くして実現出来ない素晴らしい研修旅行となった事に深く感謝申し上げます。

そして香川県出身隊員への慰問激励は、やはり協会として継続すべき事業であると、喜ぶ隊員の笑顔を見て強く思う研修でした。

7師団長との懇親会にて

千歳基地から見た香川

航空自衛隊第２航空団第２０３飛行隊　１等空尉　**長尾　尚徳**（香川県出身）

今年の１０月、香川県防衛協会様から千歳基地見学の際に激励のお言葉を賜り、本当にありがとうございました。今回はこのような寄稿の機会を与えていただきましたので、私が思う根拠レスかつ独断と偏見だらけの北海道から見た香川（環境、県人）について語らせていただきたいと思います！恐縮ではありますが若輩者のたわ言にしばしおつきあい願えればと思います。

では、早速ですが北海道から見た香川（環境）で私が最初に感じたことは、よく小さいと言われる香川県ですが、それがゆえにコンパクトで様々なものが程よい距離に存在していたなと感じたことです。北海道は皆様ご承知の通りじょんならんほど広大です。どこに行くにも時間がかかります。３０～４０ｋｍ程度ならご近所、１００ｋｍ程度の移動なら遠いと感じなくなりました。今では香川のコンパクトさを本当に懐かしく思います。次に香川（県人）についてですが、今も昔も変わらず思っているのが、いい意味で負けず嫌いな気質があると思っています。既に退官された私の飛行操縦の先生でもあり、数少ない香川県出身の大先輩パイロット（岡田治郎１等空佐）もこの気質に満ち溢れており、自分も少なからず戦闘機乗りとして訓練する際には、この気質に助けられたと思います。（私の場合はこれが悪いふうに働くことがありますが（笑）。）。

つらつらと根拠のない話をさせていただきましたが、最後に、昨年１月に小松沖で訓練中に殉職された同郷の素晴らしい防人（植田竜生３等空佐）がいたことを改めてご紹介し、締めの言葉とさせていただきたいと思います。今後も我が国の平和を守るべく任務に邁進していく所存でありますので、引き続きご支援、ご協力を賜れば幸いです。

全国防衛協会連合会
女性部全国大会及び
高知駐屯地研修に参加して

香川県防衛協会女性部
部長　今田　宏子

令和五年の全国防衛協会連合会女性部宣告大会は十月二十六日、高知市の三翠園で開催され、香川県防衛協会女性部も研修旅行を兼ねて、十六名が参加しました。

この会は五年前までは東京で開催され、初代会長の江上栄子先生を中心に行われ、習日は武道館で開かれる「自衛隊音楽まつり」を鑑賞する事が一つの柱になっていましたがコロナの感染拡大などの事情で「自衛隊音楽まつり」は中止になりました。

一昨年は、再開できたものの、人数制限があり、以前のように入場券を確保することができませんでした。そのようなことから、東京だけでなく、全国を持ち回りで開催したらとの意見があり、第一回は九州大分で初回の全国大会を行い、次回は四国にと言われていましたが、コロナ感染者が東京と変わらない状況なので中止となり、二回目は千葉県の幕張に変更になりました。三回目の昨年は奈良で、今年はやっと四国の高知県ということになりました。

高知出身の中谷元防衛大臣や陸、海、空のトップクラスの方々も参加してくださいました。

作家でジャーナリストの門田隆将氏が「歴史の帰路に立つ日本～私たちは今、何をすべきか～」のテーマで一時間二十分ほどの講演がありました。今日の日本の平和もいつ略奪されるか分からない。北朝鮮のミサイルが、本土に飛んでくるのでは、という心配もぬぐい切れない。防衛に力を入れているので、今は平和でいられるのだと気がしました。

夜の懇親会は当地の皿鉢料理に舌鼓を打ち、余興は、ウエルカム演奏やフラメンコ、よさこい鳴子踊りです。参加者全員に鳴子を渡され、踊りの指導を受けて会場ところ狭しの状態でよさこい鳴子踊りを楽しみました。

翌日二十七日は、高知駐屯地のある香南市香我美町に研修、基地は高台にあり高知市内を見下ろせる広い場所で、高機動車で体験搭乗して、基地内の案内を受けました。

その前に第50普通科連隊の山内和也隊長が不在のため、吉川浩副連隊長を表敬訪問しました。

昼食は香川県出身者の方々から、隊の食堂で和やかに話を聞きながらおいしくいただきました。

午後からは、牧野植物園を見学し、有意義に時間を過ごしました。

帰宅時間間際に夕立に遭い、雷鳴に立ちすくみましたが、無事にバスに乗ることが出来、帰途につきました。

令和六年は、鳥取で開催されると聞いており、古谷純代会長からは、「必ず参加してくださいね」、石破佳子副会長からは、「お待ちしていますからね」と参加したお礼と、お願いを受けました。

第14旅団創隊17周年
善通寺駐屯地開設73周年記念行事

4年ぶりの一般開放
来場者 約8，800名
「地域との連携」

第14旅団（旅団長大場剛陸将補）は、4月29日、善通寺駐屯地において、第14旅団創隊17周年及び善通寺駐屯地開設73周年記念行事を挙行した。

当日は雨がぱらつく場面もあったが、国会議員をはじめ香川県知事、善通寺市長、各地方自治体の長及び各自衛隊協力団体の会長など多くの来賓にご臨席いただくとともに、4年ぶりに一般公開し約8，800名の来場者で賑わいを見せた。

観閲式には、観閲部隊指揮官（副旅団長福元洋一1等陸佐）以下人員900名、車両150両、航空機4機が参加した。

式典のほか、音楽演奏、各種装備品展示、子供広場、レンジャー特技者による訓練展示及びロープ訓練体験等、各種イベントを実施し、来場した方々は4年ぶりとなる駐屯地を楽しんだ。

令和５年度自衛官候補生入隊式

第14旅団は、4月9日、善通寺駐屯地（香川県）及び高知駐屯地（高知県）において、令和5年度自衛官候補生入隊式を行った。

第15即応機動連隊（連隊長徳淵文雄1等陸佐）では、女性8名を含む約50名が、50普通科連隊（連隊長山内和也1等陸佐）では、女性4名を含む約30名が真新しい制服に身を包み、自衛官として初めての儀式である入隊式に臨んだ。

宣誓を行った約80名の新隊員は、今後の3ヶ月において自衛官としての基礎を学んでゆく。

国防男子

国防女子

小野田防衛大臣政務官来隊

第14旅団及び善通寺駐屯地を視察

第14旅団（旅団長大場陸将補）は、7月14日、善通寺駐屯地において、小野田防衛大臣政務官の部隊視察を受察した。

第3営舎地区で政務官を出迎え後、慰霊碑へご案内し御霊に献花していただいた。その後、第14旅団及び善通寺駐屯地の概況、即応機動に任ずる部隊の意義・重要性並びに南海トラフ地震への対応について報告するとともに、部隊の問題認識等を確認していただいた。

引き続き、令和5年度国内における米海兵隊との実動訓練前段（指揮所演習）の訓練状況、MCVの体験搭乗及び乃木資料館を視察の後、営内班長や分隊長などの中堅陸曹と懇談により隊員が抱える問題認識を確認するとともに、参加隊員に激励をいただいた。

政務官は、国民の高い期待に応えられる自衛隊として今ある問題点を改善すべく隊員の生の声に熱心に耳を傾けられていた。

なお昼食では、香川県のソールフード「骨付き鳥・鶏飯」を味わっていただいた。

陸自ワーキングフェスタin四国

志願者獲得に向け自衛隊をPR

第14旅団は、8月5日、善通寺駐屯地において、陸自ワーキングフェスタin四国（令和5年度募集広報の日）を行った。

本フェスタは、「自衛隊の魅力を知ってもらい自衛隊志願者を獲得する」を目的に行われ、四国4県の募集対象者に対し、駐屯地内の各施設を使用し実施した。

対象者及びそのご家族を含めた131名は、全般説明の後に、16個職種の紹介、体験喫食、隊員との懇談に参加した。特に職種紹介では、第14旅団及び善通寺駐屯地に所在する隊員、訓練展示や説明のほか、実際に体験するなど募集対象者が理解し易く興味が沸くような趣向を凝らした紹介を行った。

受賞おめでとうございます

防衛大臣感謝状

令和５年１０月２８日

（団体）香川県防衛協会　　（個人）副会長　泉　雅文

陸上幕僚長感謝状

令和５年１０月１８日

常任理事　佐藤　哲也

中部方面総監感謝状

令和５年１０月８日

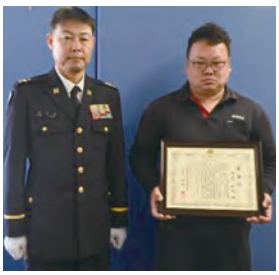
副会長　多田野　榮

第１４旅団長感謝状

令和５年４月２９日　青年部長　坂井　亮介

自衛隊香川地方協力本部長感謝状

令和５年６月７日



青年部副部長　岡内　誠司

女性部理事　清水　まり子

全国防衛協会連合会会長表彰

令和５年６月１日

前香川県防衛協会会長　（故）千葉　　昭

個人会員　　石原　俊輔

香川県防衛協会会長感謝状・表彰

令和５年６月１７日

百十四ビジネスサービス株式会社

女性部理事　　三好　文代

青年部副部長　小泉　直也

お く や み

香川県防衛協会理事　矢次誠一郎様は

令和５年６月２８日　９０歳で永眠されました。

矢次誠一郎様は平成１３年６月から常任理事等として、

協会の活動にご尽力賜りました。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

香川県防衛協会に入会される方をご紹介下さい。

香川県防衛協会では組織の拡充と活性化を図るため新会員を募集中です。
防衛協会に入会し、自衛隊を見学・応援しましょう。
法人団体・個人・青年・女性の方々のご入会お待ちしています。
お電話にてご連絡ください。直ちに入会資料をお送りします。

TEL：080-8633-2737　　担当：野口・中畑
ホームページ：http://www.kagawa-bouei.jp/news

編集後記

昨年度はコロナ禍の終息で様々な行事が再開されました。

誌面でもおわかり頂けますとおり香川県防衛協会も同様でした。特に善通寺14旅団長を訪ねての研修旅行は好評でした。

また、本会発足時からご尽力いただきました、矢次さんが亡くなられました。わたしにとっては痛恨の極み忘れられない年でもありました。

「防衛協会かがわ」
編集室　久保　智彦　横井　貴典
発行所　香川県防衛協会
〒七六〇―八六九一
香川県高松中央郵便局
私書箱111号
TEL　〇八〇―八六三三―一七三七
印刷所　㈱万成社
〒七六〇―〇〇四一
香川県高松市百間町五―二
TEL　〇八七―八二二―三三八八